

國學院大學学術情報リポジトリ

出版物紹介

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1810

出版物紹介

井上順孝著『本当にわかる宗教学—フシギなくらい見えてくる！—』

(日本実業出版社、2011 年 4 月)

内容紹介

宗教学全般を広く見渡した概説書である。宗教学と宗教との違いに触れたのち、なぜ宗教史を学ぶことが必要かを具体的な事例に即して説明する。歴史的、現代的な宗教の問題を宗教学はどう扱ったらいいのかを述べる。グローバル化する社会状況で起こる問題、あるいは認知科学などが提起する問題にも触れている。教養課程の学生や社会人を対象とした書である。

序章の「宗教学」とは何か？に続いて、次の 5 章からなる。第 1 章「宗教史」を踏まえよう / 第 2 章 様々な宗教の特徴をおさえよう / 第 3 章 宗教学を構成するキーワードとは？ / 第 4 章 宗教が「社会」や「心」に与えた影響は？ / 第 5 章 広がる宗教研究のフロンティアとは？



井上順孝編集責任『第 10 回学生宗教意識調査報告』

(科学研究費補助金・基盤研究 (A)「大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築」第 2 グループ、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」、2011 年 2 月)

内容紹介

本研究所プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」のメンバーならびに「宗教と社会」学会の「宗教意識調査プロジェクト」メンバーが中心となって行われた質問紙調査の報告書。1995 年以来 10 回目となる調査は、2010 年 4 月～6 月にかけて行われ、全国 37 大学の学生 4,311 名の有効回答が得られた（そのおよそ半数が宗教系大学である）。信仰を持っているとの回答、宗教に関心があるとの回答が増加傾向にあることが注目される。また、「パワースポットの存在を信じるか」「散骨や自然葬を希望するか」「大学において「カルト対策」の教育が必要か」といった新たな設問も設けられた。現代日本の大学生・若者の宗教意識を知るための重要なデータを提供している。

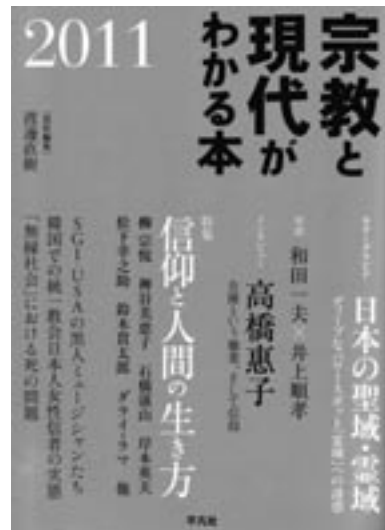


渡邊直樹責任編集『宗教と現代がわかる本 2011』

(平凡社、2011 年 3 月)

内容紹介・.....

2007 年より毎年刊行されているシリーズの 2011 年版で、その年の新たな注目すべき「宗教」トピックが多く集められて一般向けに編まれている。特集は「信仰と人間の生き方」。各種の対談・インタビューや人物論(柳宗悦・石橋湛山・松下幸之助・岸本英夫ら)において、それぞれの宗教観・信仰が焦点化されている。巻末の「話題の用語解説・新語解説」「気になる数字・データ集」「気になる人物の発言集」などの「2010 年データ集」も充実している。本研究所スタッフでは、井上順孝が「経営者にとっての宗教」(和田一夫との対談)・「映画・ビデオ・DVD」、塚田穂高が「北海道砂川市有地上神社違憲訴訟」、高橋典史が「宗教が分かる Book ガイド」(共著)をそれぞれ執筆している。全 324 頁。



竹沢尚一郎編『宗教とファシズム』

(水声社、2010 年 6 月)

内容紹介・.....

両大戦間である 1920 年代、30 年代のヨーロッパや日本では、ファシズム(的)な運動が盛り上がっていった。その背景にある文化的な状況に、「宗教」を手がかりに焦点を当てたのが本論集である。ファシズム運動の宗教性、宗教運動とファシズムとの関わり、また宗教研究がファシズムにどう接近していったか、ファシズム運動につながった文化運動、といったテーマが主に取り上げられている。本研究所スタッフでは、平藤喜久子が「植民地帝国日本の神話学」を執筆している。ほかの執筆者は編者である竹沢尚一郎をはじめ、川村邦光、大谷栄一、新免光比呂、深澤英隆、山中弘、有田英也、久保田浩、江川純一、松村一男である。全 367 頁。



石井研士編『神道はどこへいくか』

(ぺりかん社、2010 年 11 月)

内容紹介

本書は、現代社会と神社・神道との関わりを扱った 13 本の論文をおさめている。戦後の日本人の神社・神道に対する意識の変化を量的調査から分析した石井研士の巻頭論文は、単純に伝統宗教の衰退論を唱えるのではなく、多様な変化をミクロに把握すべきであると説く。それに呼応して、初宮参りや厄年といった人生儀礼、神葬祭墓地、女子神職、神社と行政との協働、都市の氏子区域の変化、過疎地域の神社、バリアフリー化と神社空間の変容、神道・神社の本の出版状況、ラジオ放送、パワースポットとしての神社、インターネットとの関わりが、個別のフィールド調査に基いて具体的に論じられる。本研究スタッフでは、黒崎浩行が「神社とインターネットの結びつきの深層」を執筆している。



Erica Baffelli, Ian Reader, Birgit Staemmler, (ed)

Japanese Religions on the Internet : Innovation, Representation, and Authority

(Routledge, 2010 年 12 月)

内容紹介

本書は日本宗教とインターネットとの関わりについての 10 本の論文を収めているが、副題にあるように宗教の技術革新、表象、権威をめぐる問題に特に焦点を当てている。この関心はイアン・リーダーが日本宗教の現世利益を扱った前著 Practically Religious (ジョージ・タナベと共著) やチュービンゲン大学の Cyberreligion プロジェクトの関心を発展させたものである。本研究スタッフでは、黒崎浩行が “Preserving the Dignity of Shinto Shrines in the Age of the Internet” を執筆している。

